



観光と自然保護が、相反するということはないはずである。ところが最近各地でこの両方面の間に絶えず問題がおこって、敵同志のような感覚を与えるのはおかしな話である。どこかに問題をおこす原因があるからで、これを追及して対策をたてなければ解決はできない。

目下の問題の焦点は、自然景観の人為的破壊で、原始の大自然の中に道をつけ、建造物を設け、人々が殺到してたちまち観楽境と化し、自然の姿は失われる。未知の貴重な自然物を天下に紹介したために人の往来がはげしくなり、環境の変化に伴って自然物の無謀な採取などでみるみる現形が消え失せる。

天下の絶景や秘境は特殊な者だけのものでなく、稀有な自然物も特定の者の独占すべきものでなく、国民共有の財産である。観光開発は国民のレクリエーションや保健のためには必要であり、未知の自然物も知識の向上のため開放すべきであるが、現実においては観光開発により、また貴

重な自然物の保護を訴えることにより、いつもとりかえしのつかない破壊が伴うのはまことに遺憾である。

この原因は自然保護思想の不徹底にあることはもちろんであるが、観光開発が自然の保護保存を第二として、大衆の歡心を買収を目標とし、これを規制する立場にある国がきわめて不備な態勢にあることも見のがせない。したがって、自然保護の対策はいつも後手に廻り、時機を失しがちになる。

世界的に進展してきた観光ブームに乗じて観光開発が行なわれるのは是とするも、それによって、自然保護思想が普及されるべきであるのに、現状はむしろ逆行している。国の政策のうえで一応は天然記念物、史蹟名勝の保存、国立、国定公園はうたわれているが、お話にならないほどの貧弱な予算で有名無実に等しい。

この不備を補う意味で自然保護の実をあげるため、自然保護運動の使命は大きい。

(副会長)

自然保護と観光

犬 飼 哲 夫